

障害者自立支援機器

ニーズ・シーズマッチング

地域交流会

参加料
無料



ATAサテライト橿原 開催のご案内



みんなで考えよう！

厚生労働省より補助を受け、障害者の自立支援機器に関する「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 ATAサテライト橿原」を開催します。このATAサテライトでは、自立支援機器に係わる地域のニーズ側（使う人）とシーズ側（作る人）の関係者が集い、障害当事者に置かれている課題を共有し、その課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを検討します。

テーマ

ASD（自閉スペクトラム症）の人が必要とする 支援機器を考える

座長 ASD（自閉スペクトラム症）
生活環境研究会 代表 増澤 高志氏

開催日

令和5年9月6日 AM 9:30 ~ PM 4:00

会場

橿原市商工経済会館 小会議室第2
(奈良県橿原市久留町652番地の2)

参加料・
参加資格

参加料無料

福祉機器、本テーマにご興味あるかたはだれでも参加できます。

定数

定員 20名程度 ※原則、対面での開催とします



参加ご希望の方は右記QRコードよりお申込みください お申し込みはこちらから➡



お申込み
問い合わせ先

主催者 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川、香川、五島
東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4F
電話 03-3266-6883 メール shogai-kiki2@techno-aids.or.jp



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

神経発達症（発達障害）、特に、ASD（自閉スペクトラム症）の方が

使用する支援機器に関わって

ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会 事務局 増澤 高志

1、はじめに

ASD（自閉スペクトラム症：ASD：Autism Spectrum Disorder）の方の障害の特性については、様々に提起されていますが、周りの状況や相手に応じたかかわり方に対応することが苦手であったり、くるくると回ったり、光の前で手をひらひらさせる等をはじめとする、その方独特の行動を繰り返すという特徴等があります。

また、知的能力障害が重複しておられる方もお見えですが、逆に極めて高い知的能力を有しておられる方もお見えです。

また、何らかの感覚過敏をお持ちの方も多くお見えです。

ASDの方の状態像は非常に多様です。しかし、共通した課題ももちろんありますし、その方に合った何らかの支援機器の使用と、周りの理解、支援により、その方の持つ力を発揮し、自立や社会参加につなげていくことは可能だと考えます。

2、ASDの方の使用する支援機器の市場の可能性

ASDの方の割合に関しては、この間もいろいろな数字がだされておりますが、厚生労働省は人口の1%、100人に一人としています。

また、車いすユーザーは人口の1.57%とも言われておりますので、潜在的なニーズも含め、何らかの支援機器を必要とするであろう方は、決して少なくないと思われます。

3、ASDの方にとっての支援機器に関わって

ASDの方をはじめとする発達障害の方、知的障害の方は、その障害の部分を支える支援機器の使用が基本的になされない状態で生活してきた歴史があり、当事者、家族関係者も含め、まだまだ、その障害を支える支援機器の使用が一般化されていない状況があります。そこへの理解を広げることから始めなければならない場合もあります。

また、一人一人に合った導入が必要な場合もあります。

一人一人課題は違いますが、共通する課題もあります。

4、ASDの方の支援機器に関わっての課題

解決が求められる課題は様々にあり、それに対応してほしい支援機器も様々にあると思います。その課題の内のいくつかを挙げます（順不同）。

① 様々な感覚過敏に対して

聴覚過敏、視覚過敏、味覚過敏、嗅覚過敏、触覚過敏、等があり、それぞれ人により原因や現れ方が違うことがあります。また、複数の過敏が重複することもあります。

② 感覚鈍麻（場合によっては危険なことも）への対応

感覚過敏のある人も含め、熱さ、冷たさ、痛さ、暑さや寒さ等に対して感覚鈍麻のある人もいます。

③ 時間の管理

時計を読むことができなくても、何らかの機器の使用により、自分の時間を自分で管理できるようにします。

④ 「コミュニケーション」

自分の思いを伝え、相手に理解してもらい、何らかの形で返してもらい、キャッチボールが必要ですが、ハイテクからローテク、ノンテクのものまであるものの、まだ、選択肢が充分ではありません。

⑤ 「スケジュール」(の管理)

自分の予定を基本的に自分で決め、自己管理、見通しを持つことが求められますが、まだまだ選択肢が不足していますし、導入のための支援も充分ではありません。

⑥ 「無断」外出・・・死亡事故も起っている

「防止」するための自宅・自室への閉じ込めは・・・虐待となる場合もあります。

Apple の AirTag 等も含め、今後の可能性はありますが、まだまだ課題はあります。

⑦ 「パニック」に至る「原因」に対する対応

原因は様々にありますが、いつもと違う変化に対して、本人にとって理解・納得できるように、伝えやすい、わかりやすい方法はないか。

⑧ 自身が出す大きな声や音への対応（周りもしんどいが、一番しんどいのは本人）

事前に「防止」するため、画像処理、AI、ロボット等の技術での対応はできないか。

大きな声や音に対して、床、壁、天井等の防音、遮音、対策はできないか。

⑨ パソコン、スマホ、タブレットを導入するための課題、使用する上での課題。

導入し、使いこなすまでが難しい。また、その状態の維持、アップデートによる変更に対する対応が難しい。

⑩ 防災対策（例えば、地震による大規模、広域災害時）

周りの状況が急激に変わり、その変化をすぐに受け入れることが難しく、大きな混乱を起こしてしまう危険性がある。

まだまだ課題はあると思われます。

また、ロボットやAIの進化は、大きな可能性もありますが、新たな課題が生まれることもありうると思います。そこへの対応も今後課題になるのではないかと考えます。

ぜひ、お持ちの「シーズ」を活かして、つながりそうなニーズ、解決できそうなニーズがあれば、声をかけて頂ければ幸いです。